

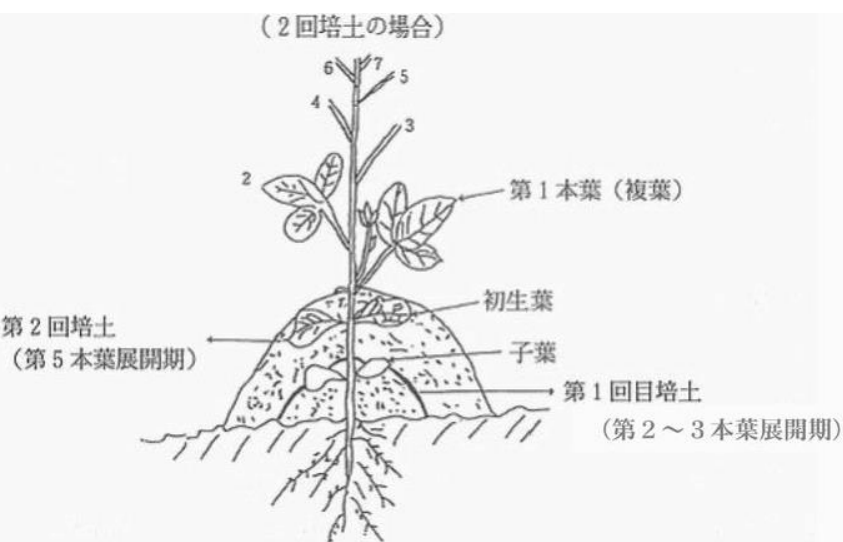
【大豆】 中耕培土の効果と作業適期

令和7年7月

大分県東部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

中耕培土とは

「中耕培土」とは、大豆の栽培中に**畦間を中耕**しながら、**株元に土を寄せる**作業を指します。



効果

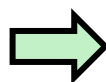
※注意点は裏面記載

排水性の向上	湿害防止
土壌の通気改善	
不定根※ ¹ の発生	生育促進
根粒菌※ ² 増殖の促進	
雑草防除	収穫作業の省力化及び生育促進
倒伏軽減	

※1.不定根とは・・・茎や葉など本来根が出ない部位から生じる根であり、作物の生育を助ける重要な役割を担っています。

※2.根粒菌とは・・・マメ科作物の根に共生し、空気中の窒素を肥料の代わりに供給してくれる細菌です。

裏面へ続く（注意点と作業タイミング）



注意点

①作業時期を間違えない（開花期までの作業の徹底）

・・・開花期以降は根や根粒を傷める

②水分が高い土壌では作業を避ける

・・・土が固まって効果が薄れたり、根や葉を傷める

③乾燥土壌及び気候では作業を避ける

・・・過乾燥を助長し、強い乾燥ストレスを与えてしまう

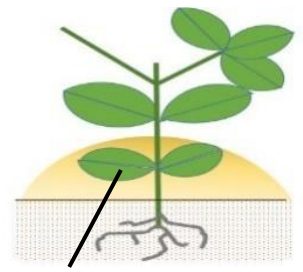
④浅すぎ・深すぎに注意

・・・浅すぎると除草効果が薄れる

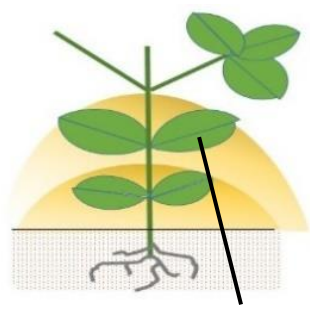
・・・深すぎると根の切断の可能性がある

作業適期

	作業 適期	培土の目安
1 回 目	本葉 2～3葉期	2～3 c m 子葉を覆う程度 (多すぎると茎の呼吸の妨げ になる)
2 回 目	本葉5葉期 ～開花期まで	初生葉までを 覆う程度



子葉



初生葉

中耕培土は、適期・適湿・適深を守ることによって効果を最大化できます。気象や生育状況をよく見て判断することが大切です。